

V O L V O

PÅ VÄG ポ・ヴェーグ

Volvo Trucks Japan
Customer Magazine

Issue No.73
September 2025

ドライバーの憧れを
会社の推進力に



THE WORLD'S SAFEST VOLVO.

世界最高水準の安全性



ボルボ FH のキャブ構造は、ゼロからデザインされたものです。その結果、ボルボ史上最も安全なキャブが誕生しました。たとえ静止している物体に時速 80 キロで衝突したとしても、ドライバーの命を高い確率で守ります。それは、世界で最も厳しいといわれるスウェーデン式衝突試験で実証済み。この試験では、ルーフへの 17 トンの圧力や、リアと A ピラーへの 29.4 キロジュールの衝撃にも耐えてきました。いくらキャブ構造が頑丈でも、飛んできたパーツでケガをするようなら、安全なトラックとは言えません。だから、ボルボでは接合部の安全性についても、何度も繰り返しテストを行っています。世界最高水準の安全性。それは、ボルボ・トラックが長年にわたって厳しい衝突試験を積み重ねてきた証なのです。

V O L V O



P08



P07



P12



P14



P18

CONTENTS

P08 ドライバーの憧れを 会社の推進力に

岡山県備前市に本社を構え、日本全国に大型鋼材を輸送する株式会社桂物流。重量物輸送のプロである同社は、近年ボルボ・トラックを積極的に導入している。

P07 豊富な経験と実績で支える、中国エリアの頼れるパートナー

岡山県倉敷市を拠点に、中国エリアのボルボ・トラックユーザーをサポートする株式会社キャリオンを紹介する。

P12 確かな視界がもたらす、絶対の安心感

桂物流のドライバー、佐伯貴史さんがパッセンジャーコーナーカメラやバックカメラがもたらす安心感について語る。

P14 女性ドライバーと共に創る運送業界の未来

最近ボルボ・トラックが実施した調査をもとに、女性ドライバーの活躍の場を増やすためのヒントを探る。

P18 ボルボLNGトラクター、世界で需要拡大

ボルボ・トラックはLNGトラクターのバイオニアとして、カーボンニュートラルな輸送を力強く牽引している。

磐石のアフターサポート体制で お客様のビジネスを支える

5月に栃木県で開催した試乗会には、2日間で100名近くのお客様にご来場いただきました。ご多忙の中ご参加いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

最新モデルの進化をご自身の目で確かめていただくとともに、ボルボ・トラックが提供する総合的な価値をお伝えする貴重な機会となりました。

試乗会で特に嬉しかったのは、「充実したアフターサービス網もボルボを選ぶ大きな理由だ」というお声を直接いただけたことです。走行性能やデザインだけでなく、ボルボ・トラックが最も重要視してきたサポート体制を評価いただけたことは、私たちの想いが着実に伝わっている証だと感じています。

ボルボ・トラックでは、お客様の車両が常に最高の状態で稼働できるよう、全国のサービスネットワークの強化に長年力を注いでまいりました。かつては限られた拠点数であった私たちのサービスネットワークは、2010年よりUDトラックの整備拠点でもボルボの取り扱いが始まったことで飛躍的に拡充され、現在では全国約180拠点という大きな規模となりました。これにより、「点」で支える体制から「面」で支える体制へと進化を遂げ、日本全国どこでサポートが必要になっても、迅速かつ質の高

いサービスを提供することが可能になっております。

その最前線で活躍するのが、高度な専門知識を持つメカニックたちです。私たちは、トレーニングセンターで多岐にわたる研修プログラムを実施し、常にメカニックのスキルアップを図っています。また、群馬にあるセントラル・パーツ・ウェアハウスからは、必要な部品を全国へ迅速に供給しており、万が一の欠品時にも、海外から航空便で取り寄せるなど、お客様のダウンタイムを最小限に抑える努力を続けています。

車両一台一台を支えるメカニック、電話の向こうでお客様の不安に寄り添うコールセンターのスタッフ、そして全国のディーラーネットワーク。こうした仲間たちの日々の献身的な努力と情熱こそが、ボルボ・トラックの品質と信頼を支える礎です。この場を借りて、全てのスタッフの皆様に深く感謝いたします。

これからも、私たちはお客様と、現場で汗を流す全てのスタッフの声に真摯に耳を傾け、最高の製品とサービスを提供していくことをお約束いたします。

ボルボ・トラックセールス
バイスプレジデント
関原 紀男



PÅ VÄG ボ・ヴェーグ

本誌は、ユーザーの皆様とボルボ・トラックを結ぶコミュニケーション誌です。「PÅ VÄG（ボ・ヴェーグ）」とは、「旅の途中」「移動中」を意味するスウェーデン語。ボルボ・トラック・ユーザーの皆様が日々営む輸送業務をイメージしたタイトルであると同時に、ボルボ・トラックの進化し続ける姿勢も表しています。本誌の内容についてのご意見・ご要望は、お気軽にUDトラック（株）ボルボ・トラックセールスまでお寄せください。



volvotrucks.jp



facebook.com
VolvoTrucksJapan



instagram.com
volvotrucksjp



youtube.com
volvotrucks

最新の進化を体感 ボルボFH 2025年モデル試乗会を開催



比較試乗やプレゼンテーションなど、多彩なプログラムを用意。参加者は2日間にわたり、ボルボ・トラックの最新技術と進化を五感で体験した。

2025年5月末、緑豊かな栃木県のGKNドライバインジャパン株式会社ブルーピンググラウンドを舞台に、ボルボFH 2025年モデルの試乗会が開催された。2日間にわたり約100名のお客様が参加し、ボルボ・トラックの最新技術と進化を五感で体験。称賛の声を多くいただき、盛況のうちに幕を閉じた。

今回のプログラムの目玉は、2025年モデルを筆頭に、2024年、2023年モデルを乗り比べることができる比較試乗。全長約2kmの広大な外周コースでは、力強いエンジン性能や滑らかなトランスミッションによる加速、確実なブレーキング性能を体感できた。さらに、パイロットアシストや交通標識認識機能といった最新の安全機能の効果を、実際の走行

を通して確認いただいた。参加者からは「従来モデルと直接比較ができ、普段大型トラックを運転しない者でも進化がよくわかった」といった声が寄せられた。

また、非舗装路コースでは、ボルボが誇るボルボ・ダイナミック・ステアリング（VDS）の真価を体験。凹凸のある悪路でもハンドルが取られることのない走行安定性と、サイドミラーの優れた視認性もあわせて確認いただいた。「ステアリングだけでなく、エアサスも素晴らしく、乗り心地が良い。乗務員の負担軽減にもなると思う」と、ドライバーの快適性と疲労軽減に貢献する性能を高く評価する声が聞かれた。

本試乗会では、車両性能の体験だけでなく、購入後の安心を支えるアフターサポートに関するプ

レゼンテーションも実施。メンテナンス費用の定額化や、安定したパーツ供給体制、全国に広がるディーラー拠点網などについてご案内した。これには「部品の供給がどんな流れなのか理解できてよかった」と、具体的な運用面でのメリットに納得の声が寄せられた。

今回の試乗会は、製品の進化をお客様自身の目で確かめていただくとともに、ボルボ・トラックが提供する総合的な価値をお伝えする貴重な機会となった。今後もユーザーの皆様の声に真摯に耳を傾け、最高の製品とサービスを提供していく。■



全長約2kmの外周コースで、最新モデルの優れた走行性能や安全機能を実感。

ボルボ・ダイナミック・ステアリングに 安全性を高める新機能が追加

ボルボ・トラックは、世界的に定評のあるボルボ・ダイナミック・ステアリング(VDS)をさらに改良し、フロントタイヤのバンクを瞬時に検知して安全走行を維持する、画期的な新機能を追加した。

フロントタイヤがバンクすると、車両は急激に進路を乱し、ドライバーが即座に制御することは極めて困難になる。新世代のVDSは、この危険な状況に対し、車両の挙動が乱れる前にバンクそのものを検知。即座に衝撃を緩和し、車両の横滑りを抑えることで、ドライバーが車線内に留まるのを強力にアシストする。

ボルボ・トラックの交通安全担当ディレクター、アンナ・リッジ・バーリングは、この新機能の重要

性について次のように語る。

「タイヤのバンクは、トラックを突然横滑りさせる可能性があります。その結果は致命的になりかねません。この革新技術は、ドライバーと周囲の道路利用者の安全性を向上させ、私たちのボルボ・ダイナミック・ステアリングをこれまで以上に優れたものにします」。

この新機能は、VDSがもともと備えている数々の利点に追加されるものである。2013年の登場以来、VDSは世界中のドライバーをサポートしてきた。例えば、低速走行時の操舵力を最大75%も低減する機能や、路面からの不快な振動を吸収する機能は、ドライバーの身体的負担や長時間の運転による疲労を大幅に軽減する。



緊急時の安全性も手に入れたVDS。ドライバーに最高の安心と快適性を提供する。

今回のアップグレードにより、VDSは日常の運転における疲労軽減だけでなく、タイヤのバンクという突発的な緊急事態においてもドライバーを守る、包括的な安全システムへと進化した。ドライ

バーに最上級の安心と快適性を提供するボルボ・トラックの哲学が、ここにも息づいている。

なお、本機能は、日本でも今後のモデルで導入を予定している。■

万博 北欧パビリオンで「VOLVO DAY」を開催

5月下旬、大阪・関西万博会場内の「北欧パビリオン」にて、特別なイベント「VOLVO DAY」が開

催された。全国のボルボ・トラック・ディーラーの担当者約20名が参加し、ボルボのルーツである

北欧のサステナビリティへの考え方と、ボルボ・トラックが目指す未来のビジョンを共有する貴重な機会となった。

イベントは、北欧パビリオンの担当者によるプレゼンテーションからスタート。「信頼の社会——共に創る幸福な未来」というパビリオンのコンセプトのもと、木材を多用したサステナブルな建築や、自然との共生を目指す北欧ならではの価値観が紹介された。

続いて、ボルボ・トラックの担当より、電動化をはじめとするボルボ・トラックのサステナブルな輸送に向けた具体的な取り組みについてプレゼンテーション

が行われ、参加者は熱心に耳を傾けた。

協賛企業・関係者限定の特別なエリアでの開催ということもあり、参加者からは「まるで北欧にいたかのような没入感を味わえた」「ブランドの哲学を五感で感じることができた」といった声が寄せられた。

ボルボ・トラックは、全国のディーラーパートナーと共に、今回のイベントで得た学びと体験をお客様へのより良い提案に活かし、サステナブルな輸送ソリューションの提供を通じて、未来社会の実現に貢献していく。■



木材を多用した北欧パビリオン。参加者はボルボ・トラックの哲学を肌で感じた。

ディーラー紹介：ボルボ・トラック中国 株式会社キャリオン（岡山県） 豊富な経験と実績で支える、中国エリアの頼れるパートナー

日本全国のボルボ・トラック正規ディーラーを紹介するシリーズ。今回は、中国エリアのボルボ・トラックユーザーを力強く支える株式会社キャリオンを紹介する。

—— 会社の概要を教えてください。

当社は1968年に創業し、2000年4月よりボルボ・トラック正規ディーラーとして歩み、今年で25年の節目を迎えます。倉敷市に本社とサービス工場、車検センター、広島市に支店を構え、岡山県を中心に山陰地方のお客様をサポートしています。

—— ボルボ・トラックを担当するメカニックは何名いますか。

当社のメカニックは十数人全員がボルボ・トラックに対応できるのが特徴です。特にボルボに精通した技術委員が定期的にトレーニングセンターで最新技術を習得し、その知識を全メカニックに共有することで、常に高品質なサービスを提供できる盤石の教育体制を築いています。

—— 御社の強みを教えてください。

私たちの最大の強みは、ボルボ・トラックに関する圧倒的な経験値です。ボルボの管理台数は

400台以上にのぼり、在庫車両の半数以上がボルボという環境が、高い技術力と迅速な対応力を育んでいます。

また、これまでに4度、ボルボ・トラック販売台数日本一を達成した実績も私たちの誇りです。この販売力は、「サービス体制は万全」という自信に支えられており、販売とサービスが一体となってお客様に最高の価値を提供しています。

—— 全国のボルボ・トラック・ユーザーにメッセージをお願いします。

中国エリアで万一のトラブルが発生した際には、経験豊富な私たちが万全の体制で対応いたしますので、どうぞご安心ください。お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。■

ボルボ・トラック中国 株式会社キャリオン サービス工場

〒710-0023
岡山県倉敷市帯高522番地
TEL 086-429-2429
FAX 086-420-0031
<https://www.carion.co.jp/>



ボルボ・トラックの管理台数は400台以上で、メカニックの全員がボルボを扱える。

最寄りのサービス拠点が瞬時に見つかる「ディーラーロケーター」

現在地から最も近いボルボ・トラックのサービス拠点を一目で確認できる「ディーラーロケーター」が、日本でも利用可能になりました。

ボルボ・トラック・ジャパンのウェブサイト内「ディーラー検索」ページで、お近くの拠点を地

図上に表示します。各拠点の電話番号や現在地からの経路も確認できるため、路上でサービスが必要になった際にも、スマートフォンなどから迅速に最寄りのサービス拠点を見つけることができます。ぜひご活用ください。■



ディーラーロケーターはこちらからご覧いただけます。
<https://www.volvotrucks.jp/ja-jp/tools/dealer-locator.html>



カキ養殖のいかだが浮かぶ片上
湾に架かる片上大橋を、桂物流
のボルボFHが駆け抜ける。





THE POWER TO ATTRACT

ドライバーの憧れを会社の推進力に

岡山県備前市を拠点に、日本全国へ大型鋼材をはじめとする重量物を輸送する株式会社桂物流。関連会社である株式会社桂スチールの製品輸送で培った高度な技術力と安全意識を強みとする同社は、近年ボルボ・トラックを積極的に導入している。その結果、ドライバーの確保と若返りという、業界が抱える課題に対する一つの答えを見出しつつある。なぜボルボを選ぶのか、その魅力と導入がもたらした確かな効果について、三木文寛社長に話を聞いた。

Text: YASUHIRO NODA Photo: JUN TAKAGI

岡山県南東部、古くから交通の要衝として栄えた備前市。この地に本社を置く株式会社桂物流は、1991年の創業以来、関連会社である桂スチールが製造するビル建築用などの大型鉄骨（BH鋼）をはじめとする、長大・重量物の輸送を事業の柱としてきた。現在、従業員数は31名で、そのうち26名がドライバーだ。トラクターヘッド23台を中心に、ポールトレーラーや低床トレーラーなどの多様な保有車両を駆使し、日本全国の建設現場や鉄工所へ、まさに社会基盤を支える部材を日々送り届けている。

高次元の技術と安全性が求められる大型鋼材輸送

桂物流の最大の強みは、30年以上にわたり培ってきた大型鋼材輸送の専門的ノウハウだ。時には長さ18mにも及ぶ鉄骨を運ぶなど、その輸送には極めて高い運転技術と安全管理が求められる。三木社長は、その事業の特殊性と難しさを次のように語る。

「私たちの仕事は、単に大きなものを運ぶだけではありません。配送先は広い場所ばかりではなく、狭い鉄工所や建設現場の奥にまで入っていくことも多々あります。長尺物を安全に取り回すには、経験に裏打ちされたドライバーの技術が不可欠です」。

この高度な技術を若手に継承するため、同社では独自の社員教育に力を入れている。未経験で入社したドライバーには、まず単車で経験を積ませ、徐々にトレーラーへステップアップさせる段階的な育成プログラムを用意。しかし、同社の教育の真髄は、経験豊富なベテランが新人を直接指導する、現場でのマンツーマン教

育にある。ドライバーが独り立ちできるまで、先輩が必ず横に乗り、運転技術はもちろん、荷物の特性に応じた固縛の仕方や狭い現場での立ち回り方まで、実践を通して丁寧に技術を伝承する。この血の通った教育体制があるからこそ、若手は安心して高度なスキルを吸収し、プロフェッショナルへと成長できるのだ。

「積み込む製品も一つひとつ形状が異なるため、まるでパズルのように重心を考えながら荷締めをしなければなりません。積み方も多種多様で、これも経験がものを言う世界です」と三木社長は続ける。

こうした固縛の技術も、現場でベテランが若手に直接指導することで、着実に伝承されている。そして、何よりも優先されるのが安全への意識だ。

「相手は鉄ですから、少し接触しただけで大事故につながります。安全への意識は常に最高レベルを保つ必要があります」。

その言葉通り、現場では常に危険を予測し、安全を最優先する行動が徹底されている。この確かな技術力と高い安全意識こそが、多くの取引先から寄せられる厚い信頼の源泉であり、桂物流の揺るぎない礎なのである。

ドライバーの心を掴み 会社を変えたボルボ・トラック

同社が最初にボルボ・トラックを導入したのは2018年。そのきっかけは、多くの運送会社と同様、ドライバー不足への強い危機感だったと三木社長は振り返る。

「特に、私たちが扱う特殊トレーラーを乗りこなせるドライバーの確保は、年々難しくなっていました。



一つひとつ形状の異なる鋼材の重心を瞬時に見極め、慎重に積み込みを行うドライバー。そのプロフェッショナルな作業を支えるのは、豊富な経験と安全への高い意識、そして信頼のパートナーであるボルボ・トラックだ。

何とか会社の魅力を高めたいと考えていた時、街で走るボルボ・トラックの圧倒的な存在感と格好良さが目に留まりました。これなら若い人も興味を持ってくれるのではないかと直感し、思い切って3台導入したのが始まりです」。

この決断は、会社の未来を大きく変える転機となった。ボルボ導入後、同社はそのスタイリッシュな車両を会社の新たな「顔」として、ドライバー募集の際に前面へと打ち出した。すると、その効果は絶大で、これまでとは明らかに違う手応えがあった。「あのボルボに乗りたい」という熱意を持った若いドライバーが、次々と同社の門を叩くようになったのだ。

「驚くべきことに、ボルボに乗りたいがために、県外

から岡山に家を建てて移り住んでくれた社員もいるほどです。導入前は50歳に近かったドライバーの平均年齢も、今では30代中盤まで一気に若返りました。これは経営者として何より嬉しい効果です」。

現在では保有するトラクターヘッド23台中16台がボルボ・トラックとなり、名実ともに事業の軸を担う存在となっている。

「一度乗れば、もう他には戻れない」 圧倒的な快適性と信頼性

なぜ、これほどまでにボルボ・トラックはドライバーを惹きつけるのか。三木社長は、ドライバーから日々聞こえてくる声として「国産車とは一線を画す、圧倒的な快適性」を挙げる。

「『一度ボルボに乗ったら、もう国産車には戻れない』と皆が口を揃えます。特に評価が高いのが、オートマチック・トランスミッションのI-シフトがもたらす滑らかな走りです。シフトチェンジ時のストレスが全くなく、パワーがありながら室内は非常に静かで、長距離を走った時の疲労感が劇的に軽減されると言っています」。

ボルボ・トラックならではの広々としたキャブが

「ボルボを導入してから、ドライバーの平均年齢が50歳近くから30代中盤まで一気に若返りました」

株式会社桂物流 三木文寛 社長

MOVIE



上記のQRコードから「Driver's Voice」の動画をご覧いただけます。



三木社長（前列中央）と、同社を支える頼もしい仲間たち。「ボルボに乗りたいたがために、県外から移り住んできた社員もいる」という社長の言葉通り、その表情からは仕事への誇りと満足感が伝わってくる。

もたらす卓越した居住性も、長距離輸送を担うドライバーにとっては大きな魅力だ。

「圧迫感のない広々とした室内空間、長距離輸送には欠かせない豊富な収納スペース、そして何より身体をしっかりと休められる質の高いベッド。こうした一つひとつの要素がドライバーの心身の負担を大きく軽減してくれるので、『長時間の運転でもリラックスして快適に過ごせる』とドライバーからも好評です。当初は国産車にこだわっていたベテランまでもが、今ではボルボしか乗らないと言うほど、その魅力は本物ですね（笑）」。

このドライバーからの絶大な支持が、日々の安全運行と高いモチベーションにつながり、事業全体の好循環を生み出している。

ドライバーファーストで築く 未来への基盤

社長就任から1年。三木社長は「ドライバーファースト」を経営の中心に据え、ドライバーが誇りを持って働ける環境づくりに全力を注ぐ。

「ボルボはドライバーにとって最高の仕事道具であり、憧れの対象でもあります。当社では、入社後1年半

から2年という業界では異例の速さで新車のボルボに乘れる体制を整えています。これも彼らのモチベーションを高く維持する一因になっていると思います」。

今後の展望として、関東方面などへの輸送をさらに効率化するための「中継拠点」の設立を目標に掲げる。その実現に向け、ボルボ・トラックの導入ペースは今後も加速していく予定だ。

「年に2～3台のペースで着実に増車し、体制を強化していきたい。ドライバーが安心して、そして何より楽しく長く働ける環境を整えることが、会社の成長の礎になると信じています」。

ドライバーの憧れを力に変え、桂物流はボルボ・トラックという最強のパートナーと共に、日本のインフラを支える最前線で、未来への道を切り拓いていく。■

株式会社桂物流

〒705-0132

岡山県備前市三石179-3

TEL: 0869-62-9077

FAX: 0869-62-9078

<http://www.katsura-buturyu.co.jp/>





佐伯 貴史さん

ドライバー歴: 10年

ボルボ・トラック乗車歴: 6カ月

主な輸送品: 鋼材

運行地域: 東北~九州

DRIVER INTERVIEW

A CLEAR VIEW

確かな視界がもたらす、絶対の安心感

桂物流の佐伯貴史さんがボルボ・トラックの真価について語る。

Text: YASUHIRO NODA Photo: JUN TAKAGI



ボルボFH 2024年モデル

モデル: FH 6×4トラクター

トランスミッション: I-シフト・デュアルクラッチ

エンジン出力: 551PS

キャブ: グローブロッター

サスペンション: フルエアサス

鋼材輸送のエキスパートとして全国を駆け巡る、桂物流の佐伯貴史さん。ボルボトラックのステアリングを握り始めて約半年、その日々は新鮮な驚きに満ちているという。

「街で見かけて、純粋に『カッコいいな』と思っていました。実際に自分が乗ることになった時は本当に嬉しかったですね。第一印象は、とにかく大きい。特に、立って移動できるほどのグローブロッターキャブの広さと、運転席からの視界の高さは国産車とは全く違います」。

実際に運転して、その真価を最も感じたのはパッセンジャーコーナーカメラだったという。

「助手席側のサイドミラー下にあるカメラが本当に便利です。ウイinkerと連動して、

これまで死角だった左前方がサイドディスプレイではっきりと確認できるんです。特に、車線変更時や左折時の安心感が段違いですね」。

後方の視界についても、バックカメラの性能に助けられることが多いと語る。

「左バックはどうしてもミラー頼りになりますが、このカメラはかなり奥までクリアに見えます。ボルボのサイドミラー自体も遠くまでしっかり見えるので、カメラと合わせることで、まさに死角がなくなった感覚です。重量物を運ぶ私たちにとって、この安全性は非常に大きいですね」。

長距離運行を支えるパワーと快適性もボルボならではの魅力だ。

「鋼材を満載していても、坂道でスピード

が落ちることなくグイグイ登っていくパワーには驚かされます。I-シフト・デュアルクラッチが、変速したことさえ気づかないほどスムーズに自動でシフトチェンジしてくれるので、長距離を走った後の疲労感が全然違います」。

快適なベッドで質の高い休息がとれるなど、卓越した居住性も日々の疲れを大きく軽減してくれているという。もはや国産車には戻れない、と佐伯さんは断言する。

「もう無理ですね(笑)。パワー、走りやすさ、居住性、そのすべてが他の大型車とは違います。このトラックに乗っていると、運転すること自体が大きな喜びになります」。

最高の安心感と快適性が、日々の長距離運行を「仕事」から「運転を楽しむ時間」へと変えてくれる。■

BUSINESS STORY

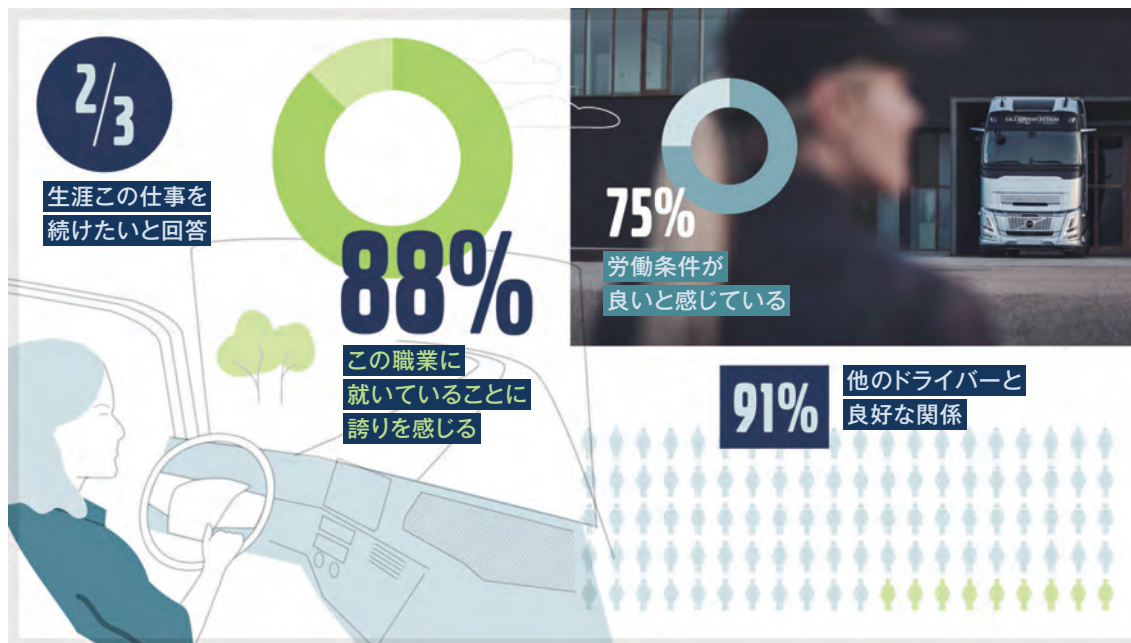
WOMEN DRIVE THE FUTURE

女性ドライバーと共に創る 運送業界の未来

ドライバーの働き方改革に伴う「物流の2024年問題」の影響が本格化する日本の物流業界。深刻な人手不足を解消する鍵として、女性ドライバーの活躍に大きな期待が寄せられている。しかし、その割合はまだ3%程度というのが現状だ。この課題は世界共通であり、海外の先進的な取り組みの中に、日本の未来を照らすヒントが隠されているかもしれない。最近ボルボ・トラックが実施した調査が、その道筋を指し示している。

Text: DELPHINE MAURY Photo: VOLVO TRUCKS





日本のトラックドライバー不足は、もはや待ったなしの状況だ。ドライバーの高齢化に加え、2024年4月から適用された時間外労働の上限規制は、輸送能力の低下に拍車をかけている。この危機的状況乗り越えるため、国土交通省が「トラガール促進プロジェクト」を推進するなど、女性の活躍がこの課題を乗り越えるための重要な鍵として注目されている。しかし、日本の女性トラックドライバーの割合は現在約3.4%*と、依然として男性中心の業界であることに変わりはない。

この状況は海外でも同様で、例えばヨーロッパでは女性ドライバーの割合はわずか4%に過ぎない。一方、米国では2010年以降で88%増加したものの、全体に占める割合は13.7%に留まっている。このように、より多くの女性を運送業界に迎えることは、世界共通の課題として認識されているのだ。

女性がトラックドライバーになる動機についてより深い知見を得るため、ボルボ・トラックは最近、ヨーロッパ10カ国で231人の女性を対象とした聞き取り調査を実施した。

「この業界で女性の採用と定着を成功させたいのであれば、彼女たちの経験についてより深く知る必要があります。固定観念に頼ったり、思い込みで判断したりすることは避けなければなりません」と、ボルボ・トラックのシニアマーケットアナリスト、デルフィーヌ・モーリーは語る。

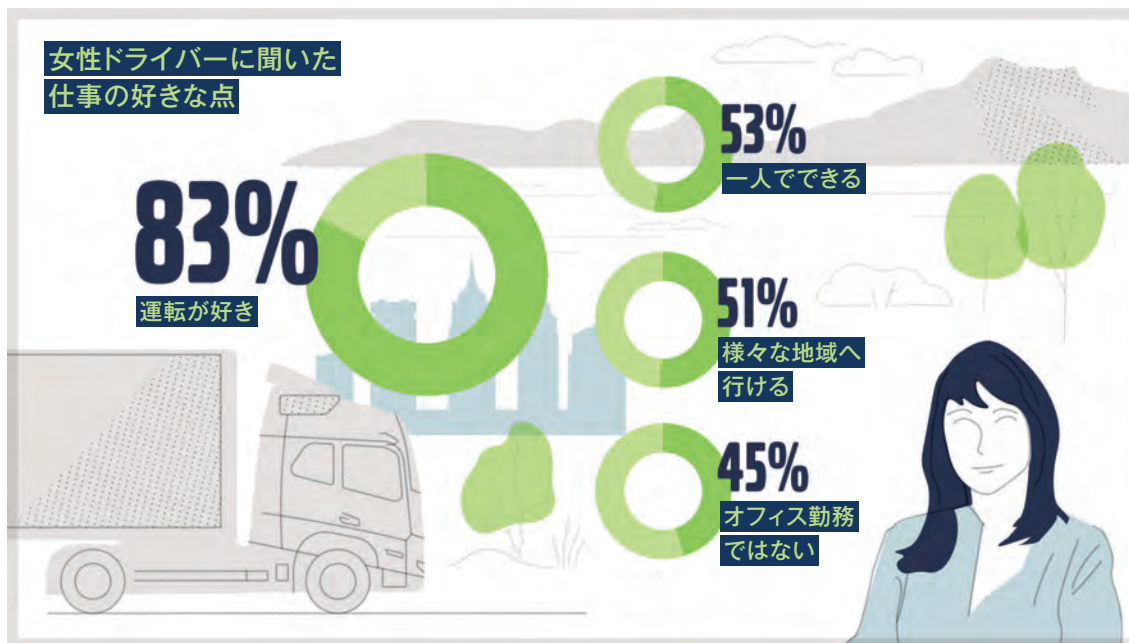
女性ドライバーは仕事のどこに魅力を感じているのか

調査結果から、多くの女性ドライバーがこの仕事に肯定的な側面を見出していることが明らかになった。44%はトラックの運転が自身の精神衛生に良い影響を与えていると考えている。回答者の3分の2は、生涯この仕事を続けられると考えており、他の女性にも勧めたいと答えている。75%は労働条件が良いと感じ、91%は他のトラックドライバーと良好な関係を築いていると答えた。そして、回答者の88%が、この職業に就いていることに誇りを感じている。

「彼女たちがこの仕事に対して抱く情熱の高さには、本当に驚かされました」とモーリーは言う。「多くの女性ドライバーは、生活のためにやむを得ずこの業界に入ったわけではありません。自らこの職業を選んでいきます。彼女たちは運転すること、そして路上にいることが好きなのです」。

この仕事の好きな点について尋ねると、以下のよう
な回答が得られた。最も多かったのは「運転が好き」
(83%)であった。以下、「一人でできる」(53%)、
「様々な地域へ行ける」(51%)、「自律している」
(47%)、「オフィス勤務ではない」(45%)と続く。
仕事をしていて何が一番楽しいかという質問には、「運
転している時間」(75%)、「音楽・ラジオ・オーディオ
ブックを聴くこと」(63%)、「荷物の配送」(43%)、

* 出典：全日本トラック協会
『日本のトラック輸送産業
現状と課題 2024』（総務
省「労働力調査」2023年
平均による試算）



「他のドライバーとの会話」(41%)という回答が上位を占めた。

運送業界で女性が働く上での障壁とは？

このように肯定的な捉え方が多い一方で、この調査は職業上の重要な欠点も浮き彫りにした。多くの回答

者が、ドライバー向けの休憩施設で「トイレ」(63%)や「シャワー」(57%)を見つけるのに苦労すると報告しており、70%が利用可能なトイレの清潔さに問題があると答えている。

仕事で不利だと感じる点について尋ねると、最も多かったのは「他の道路利用者やドライバーからの敬意の欠如」(70%)、「危険や事故のリスク」(53%)、「厳しい規制」(40%)だった。また、多くの人がこの仕事を精神衛生に良いと考える一方で、「身体の健康」(49%)や「私生活」(43%)に支障が出ていると感じる人も多かった。31%の女性が、性差別的・女性蔑視的な言動を受けたと報告している。

調査には、トラックのデザインや人間工学、さらにはドライバー向け休憩施設での安全性や個人のセキュリティに関する質問も含まれていた。しかし、結果は、これらがほとんどの女性ドライバーにとって重大な問題ではないことを示唆している。多くの女性がカメラやドアストラップ(ドアを内側から固定する防犯用ベルト)などの防犯対策を講じているものの、回答者の70%は夜間にトラックで就寝する際に安全だと感じていることがわかった。

より多くの女性ドライバーを惹きつけ 定着させるために企業ができることは？

この調査結果を踏まえ、運送会社が取るべき最も重要な対策は、夜間停車のための安全なドライバー向け休憩施設の確保、勤務中の清潔なトイレ利用の保証、

日本での取り組み 「トラガール促進プロジェクト」とは？

ドライバー不足が深刻化する日本で、国土交通省が中心となって推進しているのが「トラガール促進プロジェクト」だ。女性トラックドライバーを「トラガール」と名付け、その活躍を広く発信することで、業界のイメージ向上と新たな人材確保を目指している。

主な活動は、専用ウェブサイトでの情報発信だ。現役で活躍するトラガールのインタビュー記事や、女性の採用に積極的な企業の取り組みを紹介し、仕事のリアルな魅力を伝えている。また、企業に対しては、女性が働きやすい環境づくりのための具体策を提示。女性専用トイレや更衣室の設置といったハード面の整備から、多様な働き方を可能にする勤務形態の見直しまで、幅広い改善を促している。

このプロジェクトが目指すのは、単に女性ドライバーの数を増やすことだけではない。性別にかかわらず、すべての人が働きやすいと感じられる魅力的な労働環境を創造し、物流業界全体の持続的な発展を支えることにある。官民一体となったこの取り組みは、日本の物流の未来を明るく照らす、重要な一歩と言えるだろう。



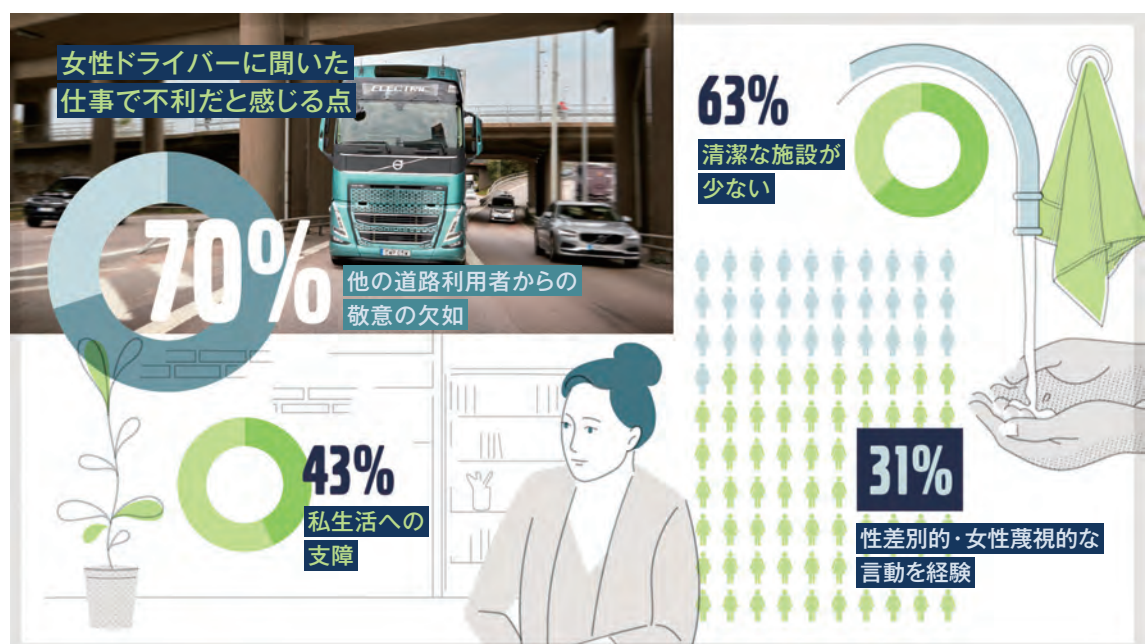


そしてカメラやアラームといったセキュリティ機能のトラックへの搭載であるとデルフィーヌ・モーリーは言う。また、ドライバーが良いワークライフバランスを実現できるよう、柔軟な勤務形態を整えることも重要である。

「しかし、これらの対策は女性ドライバーの定着を助けるだけでなく、男性ドライバーにとっても有益であることを強調すべきです。実際、この調査を通じて私が理解したのは、多くの女性トラックドライバーは

特別な待遇や仕様変更を求めているのではなく、ただ一人の普通のトラックドライバーとして受け入れられ、男性の同僚と同じように扱われることを望んでいる、ということなのです」。

女性ドライバーのリアルな声に耳を傾けること。それは、性別を問わず、すべてのドライバーにとって働きやすく、魅力的な職場環境を創造するための、最も重要な鍵となるだろう。■





クリーンなエネルギーで、未来へと続く道をひた走る。ボルボFH LNGトラクターは、地球環境への配慮と卓越した走行性能を両立させ、持続可能な輸送の新たな地平を切り拓く。

A STEP TOWARD ZERO

ボルボLNGトラクター 世界で需要拡大

脱炭素化が急務となる世界の運送業界において、
ボルボ・トラックはLNGトラクターのパイオニアとして、
カーボンニュートラルな輸送を力強く牽引している。
性能面で妥協することなく、CO₂排出量を最大100%削減可能な
その実力と可能性に光を当てる。

世界的な脱炭素化の流れを受け、持続可能な輸送手段への関心が高まっている。その現実的かつ即効性のある解決策として欧州を中心に注目されているのが、ボルボLNGトラクターだ。2024年には販売台数が前年比で25%以上増加し、これまでの累計販売台数は8,000台を超えるなど、その需要は目に見えて拡大している。

妥協なきパフォーマンスと 確かな環境性能を両立

ボルボLNGトラクターの最大の魅力は、再生可能燃料であるバイオガスを使用することで、燃料の製造から走行までを含めたトータルで、CO₂排出量を最大100%削減できる点にある。ボルボ・トラックのガスエンジンは、定評のあるD13ディーゼルエンジンをベースに開発されており、ディーゼル車と遜色のない優れたパフォーマンスを発揮する。

「当社のガスエンジンは、パワー、トルク、レスポンス、燃費のすべてにおいて競合を凌駕する技術を誇ります。実際に運転するドライバーからは、その静粛性や乗り心地の良さも高く評価されています」と、ボルボ・トラックの製品管理責任者、ヤン・ヘルムグレンは語る。

性能面での妥協がないため、ドライバーはこれまで通りの生産性を維持できる。さらに、航続距離は最大1,000kmに達し、長距離輸送から地域配送、建設現場での作業まで、幅広い用途に対応可能だ。運送会社

は、生産性を維持したまま、環境への貢献とランニングコストの削減を両立できるのである。

拡大するバイオガス生産が 持続可能な未来への扉を開く

この流れを後押しするのが、世界的なバイオガス生産の拡大だ。2024年には、世界のバイオガス生産量が21%も増加。インフラ整備が進むことで、バイオガスを燃料とする選択肢は、より身近なものになりつつある。多くの国では、再生可能燃料に対する税制優遇や補助金も導入されており、経済的なメリットも大きい。

もちろん、バイオガスの供給が限られる地域では、従来のLNG（液化天然ガス）を使用することも可能だ。LNG燃料を使用した場合でも、ディーゼル車に比べてCO₂排出量を最大20%削減できる。

「多くのお客様が、今すぐCO₂排出量を削減する効果的な手段として、ディーゼルトラックからLNGトラックへの切り替えを選択しています」とヘルムグレンは言う。

ボルボ・トラックは、2040年までにネットゼロエミッションを達成するという目標を掲げている。その実現に向け、バッテリーEV、燃料電池EVと並ぶ「3つの柱」の一つとして、LNGトラクターは極めて重要な役割を担っている。それは、ゼロエミッションへの道のりにおいて、今すぐ踏み出すことのできる、最も現実的な解決策と言えるだろう。■

V O L V O



PÅ VÄG

September 2025, No.73 UDトラックス株式会社 ボルボトラックスセールス www.volvotrucks.jp

全てのお客様に、 安心のアフターサービスを

ボルボ・トラックは、お客様の使用条件に応じて1台1台に最適なメンテナンス計画をご提案します。この計画に基づき、適切なサービスを適切なタイミングでご提供することで、予期せぬ故障を最小限に抑え、トラックの稼働率を最大限に上げることができるのです。ボルボ・トラックを長く安心してお使いいただくために、メーカー保証期間を一般部品・駆動系部品とともに延長したパッケージ、ボルボ・ブルー・プレミアもご用意しています。ボルボ・トラックは、全てのお客様に、トラックの安心稼働をお約束します。

詳細につきましては、お近くのボルボ・トラック正規ディーラーにお問い合わせください。

